

## 令和元年度第1回石巻市震災復興推進会議 会議録

1 日 時 令和元年7月23日（火）午後6時30分～午後8時30分

2 場 所 石巻市かわまち交流センター（かわべい）市民交流ホール

3 出席者

【委員】21名（別紙参照）

【オブザーバー】宮城復興局石巻支所、宮城県東部地方振興事務所

【当局】市長、復興政策部長、総務部長、財務部長、復興事業部長、半島復興事業部長、生活環境部長、健康部長、福祉部長、産業部長、建設部長、病院局事務部長、教育委員会事務局長、復興政策部次長、商工課長、河川港湾課長、生活再建支援課長、学校教育課長

4 会議概要

会議に先立ち、進行について委員から意見があった。

【委員】

本日の内容を考慮すると、相当時間がかかることが予想される。全ての意見を確認できないことが考えられるため、この場での細かい議論は控え、テーマ毎に委員からの意見等を確認し、後日委員に集約したものを配布することで、議論を深めるやり方がいいのではないか。

【会長】

できるだけ簡潔にコメントしていただき、書面で残すことにより円滑に進行することとしたい。

また、本日は全部長が出席しているため、皆様のご意見を出来るだけいただきながら、実りある議論をしていきたいと思う。

議事

(1) 報告事項

復興事業の進捗状況について

（資料1、2、3に基づき復興政策課長説明）

【委員】

資料3のうち37ページの複合文化施設について、食堂の有無、駐車場の規模、こけら落としの行事予定、市民からの意見募集の予定、音響設備の状況、展示内容の具体的な予定、臨時便等を含めた交通アクセス、また、石巻市出身者で音楽の造詣の深い方がおられると思うが、名誉館長などの名誉職の指定などを含めた運営全般について、説明いただきたい。

【教育委員会事務局長】

現在の建設状況は25%程度の進捗となっている。運営についてだが、まず、現段階で

施設内部に食堂を設置する予定はないが、簡単な売店は設置する予定である。開館記念行事については、本年の9月議会に関連予算を提案する予定だが、展示内容などは検討中であり、具体的な計画はこれからである。名誉職についても今後検討させていただく。御協力いただいている団体は多数あり、そうした団体へ御恩をお返しするようなコンサートも開催したいと考えているが、それを含め、催事について検討していく予定である。

**【会長】**

ソフト事業は大事であるので、市民参加で、全国の期待に応えられるような取組に向けて、一層の努力をお願いしたい。

**【委員】**

複合文化施設について、文化協会でも、すでにこけら落としのイベントを想定し、市民として何ができるかという立場で話し合いをスタートしている。

支援団体への感謝の気持ちを表すとともに地元の伝統文化も引き継がれるように十分な検討の時間をとり、かつ、懇談会の早期の開催を希望する。石巻市民の力を集結したものの、新しいことにトライするものを作りたと思っているので、早めに明確なスケジュールを提示してもらいたいと要望する。

**(2) 意見交換**

**ア かわまち交流拠点整備事業**

(資料4に基づき商工課長説明、資料5に基づき河川港湾課長説明)

**【委員】**

交通広場に路線バスが入っており、高速バスの乗り入れも予定していると聞いていた。仙台等から人を呼び込むには有効だと思うが、その見通しについて伺いたい。

また、河川空間のオープン化「堤防一体空間」について、堤防の上だけではなく、街側も含めたマネジメントを考えていただきたいし、株式会社街づくりまんぼうも頑張っていきたい。現状、元気いちば等を利用された方に街を歩いていただきたいという思いはあるが、橋通りから中心市街地にかけては歩行者にあまりやさしくない環境とも考えられるので、回遊しやすいまちづくりを期待する。

**【商工課長】**

高速バスの乗り入れについてだが、旧観慶丸前の交差点が狭く、交通法規上は曲がれるものの、大型バスは曲がりにくく、安全な走行のためには道路改良が必要な状況であるため、宮城交通や宮城県などと検討しているところである。すぐには取り掛かれない部分もあり、工事が必要となる可能性もあるが、引き続き、乗り入れに向けて、関係機関と調整を行っていく。

また、街中の回遊については、現在、中心市街地活性化計画(第三期)を策定中であり、その中で、いかに中心市街地に人を回遊させるかを考えていきたい。

**【委員】**

中瀬公園の完成時期はどれくらいになるのか。

また、中瀬公園の整備でたびたび議論になる駐車場の問題だが、身体障害者及び交通弱

者や物品納入者、公園利用者等を配慮・想定し、台数や配置を考えていただきたい。

次に、植栽関係においても、慎重に協議・検討してもらいたい。樹木の成長もあるし、ロケーションにも大きな影響があるためである。立地を生かせるような工夫が必要である。

そして、中瀬は石巻の産業・文化の中心であると思うので、石巻の歴史を感じ取れるようなものとして、案内板のようなものを作ってもらいたい。公園の入口というのが見て取れ、子どもたちの教育に利用できるようなものが良い。

また、小さな山を設けるようであるが、中高生向けのアスレチック等の遊具の設置を希望する。

最後になるが、距離が離れていることから、橋を渡ることが苦痛であるという意見を持つ人もいらっしゃるので、手すり等に萬画の装飾を付けたり、萬画館を背景としたフォトスポットを設けたりするなどして、橋を渡ることに魅力が感じられるような工夫をお願いしたい。

#### 【復興事業部長】

中瀬公園の説明会でも同様の御指摘や御意見をいただいた。完成時期については、令和7年度を目標としている。ただし、橋が完成した際には、北側を概成させる予定である。

また、駐車場等の御指摘をいただいたが、基本的には、島全体が災害危険区域ということもあり、公園として利用しながらも避難を考慮せねばならないことと、中瀬だけでなく中心市街地でも回遊していただきたいということもあり、基本的には島全体で一般車の乗り入れは制限させていただく予定であるが、イベントや萬画館の利用、事業者や障害者等の必要最小限の車両の乗り入れについては考慮する予定である。

また、案内板等の御意見をいただいたが、整備していく中で検討させていただき、良いものに仕上げていきたい。

#### 【委員】

かわまちエリアについては、全体の7割程度が完成していると考えている。その中で、駐車場の問題というのはまだ解決していないと考えている。市で整備した立体駐車場はあるものの、大きなイベントがあると、駐車場が足りない。萬画館と共に、既存のものを活用しながら、新しいものを堤防沿いにどれだけ整備できるかを踏まえて、知恵を集めて乗り切っていきたいと思う。

また、かわべいの北側は、新しい内海橋がかかった後に広場となる予定だが、ここを小規模なイベント等で随時活用できるようなエリアとして整備をし、かわべい一帯としてイベント空間ができるようにしていきたいと考えている。

中心市街地を回遊することについて、まだ十分な成果が得られていないので、萬画を生かしたまちづくり事業の延長線で、市も新しい萬画のオブジェを随時増やしているのと連携し、中心市街地の賑わい創造として多様なイベントを実施していきたい。

萬画を生かしたまちづくりは、非常に大事なポイントであると考えている。石巻は萬画を生かした地域を推進していこうというところは、日本の中でも先頭集団を走っていたと思う。今は日本中が萬画を生かして世界に向けて情報発信をして人を集めており、現在

石巻は第二集団くらいになっていると思う。またトップを走り続けられるように頑張っていきたい。

**【委員】**

「堤防一体空間」で様々な利用ができると資料にある。私は児童館を運営しているのだが、その中で「子どもまちづくりクラブ」というものがあり、中高生が街の活性化のために意見を出しながらプロジェクトを進めている。その中でも「萬画のまち」というキーワードが出ていたし、ロマンティックなまちが良いという意見も出されている。堤防一体空間についても、照明や演出の中でも、テーマ性を持った整備がされると良いと思う。

**【会長】**

このような様々なアイデアを実践できるような仕組みがあると良い。かわまちや中心市街地は、被災した半島部へのゲートのような位置付けにもなる。各半島拠点整備されつつあるので、そこに観光客を誘導するような、人が回るようなハブ機能を有したエリアとなり、街中だけではなく半島部を含めて広く回遊し、交流人口が増加するような取り組みを期待したい。

**イ 被災者自立再建促進プログラムの取組・成果**

(資料6に基づき生活再建支援課長説明)

**【委員】**

仮設の解消が9月で完了することだが、蛇田地区の復興住宅も5年が経過し、復興住宅も空室が出ているため、空室対策を早く行うことが必要である。また、高齢者単身者ということもあり、一人で生活ができないという世帯が出てきている。早めに施設の整備や家族等との同居などの道筋を見出すことが必要ではないか。

**【福祉部長】**

復興住宅の空室が目立ってきていることや、入居者の中で高齢者の一人暮らしが増えていることへの対応だが、御指摘のとおり、高齢世帯や単身者が増えており、そういった方に対し、年に1度入居者の健康調査を行ったり、従来社会福祉士や保健師等との繋がりがあれば、新たな施設への入所等の対応も行ったりしているが、なかなか実際に施設の入所までは至っていない方もおられる。今年度からは、2か月に1回程度、生活支援員の全戸訪問を行っている。そうした中で、早めの状況把握に努め、関係機関に繋げ、安定した生活に繋げていきたいと考えている。

**【建設部長】**

復興住宅の空室が増えていることへの対策を早期にという点については、復興住宅の一般化を3月から始めており、募集定員の4倍から7倍の応募があった。特に蛇田地区については人気があり、10倍程度の応募がある。今後も定期的に募集する。

**【副会長】**

働ける年代での無職の方が多くなっているという説明があったが、「働ける年代で無職」という中には、生活保護が受理されて、そのままとなっているケースが増えているのかどうかを伺いたい。また、心身の健康面の問題や、コミュニケーションの問題もあるかとは

思うが、最近では犯罪に及ぶというようなニュースもあるので、その部分についてもう少し伺いたい。

**【福祉部長】**

可労年齢でありながら就労されていないという方については、働くことが出来ず生活保護に繋がる場合は、生活保護の支給という形で対応している。また、8050問題に当てはまるような世代の方も復興住宅の中にはいらっしゃるということで、そうした方々への支援についても、今後強化していかねばならないと考えている。

**ウ 児童生徒等への心のケア対策**

(資料7に基づき学校教育課長説明)

**【委員】**

新入社員の雇用を行う中で、入社してすぐ辞めてしまう生徒が多い。理由を考えると、震災後、保護者や社会全体が、子どもたちに対して遠慮している部分があるのではないかと、そのため忍耐力がなくなっているのではないかと考えている。

教育の立場で言うと、問題に対するケアの話はしているが、全体として、震災前後で子どもたちがどう変わったのか、そういう視点で見えていかないと「人づくり」にはなっていない。そうした観点は、企業側、社会の受け入れ側は知っている。教育現場では分からないのではないだろうか。子どもたちの変化は、視点を変えない限り分からない。こうした部分も、改めて検証するべきではないかと思う。

**【委員】**

小学校の合併による子どもたちのお互いの交流がなかなか難しかった。関係機関のケース会議と進行管理ということで資料にあるが、民生委員として活動するにあたり、子どもたちの名前などの情報が手元にない。地域で見守っていこうというが、子どもたちがどこの子どもか分からない。子どもを名簿でもって訪ねていけるような仕組みができれば、子どもに対する目のやり場が出来ると思う。私自身は子どもたちのケアをやっているが、本来は学校と家庭の環境を充実させるのが最も重要ではないかと思う。

**【副会長】**

問題行動の未然防止・早期発見ということであったが、学校と関係機関とで解決していこうというのには無理が出てきているのではないかと思う。学校の規模が小さくなっていくということもあるが、子ども会自体が無くなってきているところが増え、異年齢集団の形成が出来なくなってきている。いろいろな価値観を共有できなくなっているのが大きな問題ではないかと感じる。これは、学校、関係機関だけでは対応しきれない問題である。異年齢との交流ということについては、子ども会などでの親の顔の見える関係づくりにつながってくるのではないかと。社会教育に関連付けた対策が必要である。

**【学校教育課長】**

地域の中の学校ということで、これから「コミュニティスクール」として、地域の方々に学校に積極的に参画いただき、様々な御意見をいただく取組を、次年度よりモデル校を指定し行う予定となっている。次年度は小・中学校1校ずつを指定する予定で、その他に

も数校、学校の統合等の進捗も踏まえて順次進めていきたい。その点では、先ほどの子ども会であったり、子どもたちの見守りやケアという点は、地域ぐるみで進めていくのにつながるのではないかと考えている。

**【委員】**

高等学校評議員をやっているが、学校は経営という認識でなく、運営という認識でしてもらわないと、企業経営と同じような論理の展開になる。文科省がどういう言い方をしようとして、石巻の教育委員会においては、本当に「経営」なのか、「運営」なのか、良識ある対応を慎重に考えていただきたい。

**【会長】**

コミュニティスクールは難しい話で、ただ指定すればよいというものではなく、指定しながらも事業をしていかななくてはならなくて、なおかつ地域とも連携していかななくてはならない。先月東京で板橋区のコミュニティスクールの研修会があったが、校長と教育委員会が事業をしっかりと作りこみ、教員の理解度も検証し、学力も上げながらコミュニティにもちゃんと繋げていた。そうしたところとも連携して、ノウハウをいただくことや、高いミッションを達成するには、指定だけでなく、先生方や教育委員会の研修、技術力を高める必要があるのではないかと。教育は皆が期待するから、身動きがとりづらいということもあるだろうが、そうした面に対してコミュニティスクールとしてリスクを全体でシェアしようという形になっていると思う。前向きに、いろいろな知を借りながら、やっていかれるのが良いかと思う。

**【委員】**

震災後に子どもたちを甘やかしてきたのではないかとということについて、最近中学校の保護者からも同様の相談があった。震災を経験し、今、関わり方を難しく感じているとおっしゃっていた。先ほど相談体制の話もあったが、保護者からの相談もずいぶん入っているのではないかと考察される。お母さんたちもどのように接していいのか迷っている方もたくさんいると思われる。

**【委員】**

地域と学校の関係についてだが、雄勝地域では、震災以降人口が激減し、「地域」自体がなくなった地域も多くある。小中学生もあわせて30数名であり、遠方から通う子どももいる。子どもと地域との結びつきが昔と比べて無くなっているように思う。

子どもたちの表情の変化に気づかない先生も多い。顔色よりも、服装などの校則を守っているかを気にする傾向にある。生徒指導の規則で生徒を縛ったり、体罰を行ったりする先生もいるようだ。

また、学力の問題だが、学力テストが始まったことにより、「点数を取れば学力がある」といった狭い見方で「学力」を捉えている先生が多い。

そして、働き方についても、学校はブラック企業の典型というような言い方をされる状態であるが、仕事を自分で判断し、調整するというのが無い気がする。教育委員会の御指導をお願いしたいのは当然であるが、先生が担当する事務作業も膨大な数があるため、社会全体で考える必要があるのではないかとと思う。

**【会長】**

社会全体の要求水準が上がり、忙しくなっているけれども中身がどんどん無くなっているという、心に触れ合って、しっかり人間力をつけていくことが失われているということだと思う。

**4 その他**

**【事務局】**

質問票を配布している。委員の皆様で御質問等があれば、8月6日頃を目安に御提出願いたい。いただいた御質問については、後日あるいは次回会議の場で回答させていただく予定である。また、兼子委員より追加配布資料があるので、後程確認願いたい。

**5 閉会**

**【副会長】**

長時間にわたり、担当課から報告いただき、また、意見交換が行えたことと思う。本日は貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。なお、次回の会議については、10月頃に市内の復興状況の視察を予定している。御協力をよろしく願いたい。